

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和2年1月5日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670300526
法人名	有限会社 鹿屋介護サービスセンター
事業所名	グループホーム 田園
所在地	鹿児島県鹿屋市祓川町5369番地1 (電話) 0994-40-3151
自己評価作成日	令和元年12月16日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/">http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和元年12月26日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設は静かな田園の中にあり、周囲の騒音もなく静かに生活ができます。また、季節の野菜や果物を作っていて、利用者の方々も収穫に参加したりできます。季節により庭の畑で採れた野菜などを皆さんに食べて頂きます。夏はスイカ、秋は柿やサツマイモ、ジャガイモ、春野菜やトウモロコシなど季節で楽しめます。梅雨の時期は庭の紫陽花の花が綺麗に咲いています。施設の中はホールが50畳ありゆったりと過ごせる空間が広がっています。玄関から浴室まではバリアフリーで車いすでゆったりと移動できます。また各部屋も7畳あり、自分の普段使い慣れたものを持ち込める余裕があります。施設内にはスプリンクラーが設置されています。職員は全員採用時1年以内に消防署の救命講習を受講して緊急時に対応できるようにしています。町内会にも参加して、地域の祭りや行事への参加、また地元小中学生の棒踊りの施設訪問、小学生の慰問訪問など地元の方々との交流もしています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は広い敷地に菜園や果樹・花木が植えられ、外出が困難な利用者も季節を感じながら生活できる環境である。
- ・町内会に加入し、地域の一員として班活動や総会・清掃活動に参加したり、地域行事の八月踊りの見物に出かけている。地域からも棒踊りの披露や小学生の体験学習での来訪があり、地域と積極的に交流している。
- ・運営推進会議に多彩な立場の参加者があり、積極的な意見及び情報交換を行い、事業所運営に活かしている。
- ・代表者・管理者は、職員が利用者のその日の状況に応じて柔軟に業務を行えるよう図っており、職員は、利用者のゆったりしたペースに合わせ、本人の持てる力を活かした生活ができるよう支援している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念は、地域密着型サービスを踏まえた理念であり、毎朝職員一同声を揃えて唱和してから申し送り報告をして、理念の共有と実践に努めている。	理念はパンフレットに掲載する他、玄関・事務室・ホールに掲示し、毎朝唱和している。職員会議や自己評価記入時にケアの振り返りを行ない、理念の共有と実践を図っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として、町内会に入り班会の活動をしている。また地域の行事や祭りにも参加して、小学校との交流も図り、小学生の訪問もある。	町内会に加入し、地域の一員として自治会活動や地域行事に参加している。小学生の体験学習やボランティア受け入れにも取り組み、住民からの野菜の差し入れもある等、地域と良好な関係を築いている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	地域の方々に認知症の家族などおられる方などの相談や施設内見学をしていただき説明などを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度町内会長住民代表、地元消防団代表、家族代表、他施設の代表などに参加してもらい施設の行事や利用者の状況など説明をして、ご意見を伺い今後のサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回の運営推進会議を開催し、ヒヤリハットを含めた報告と意見交換を実施している。他のグループホーム職員の参加もあり、情報交換等を相互のサービス向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市の高齢福祉課や福祉政策課の担当者とは何かわからないことなどの相談等に協力を頂いている。また、市主催の研修会などには積極的に参加している。	市の担当者とは、運営推進会議時の意見交換や出向いての相談で連携を図っている。生活保護担当者にも同様に、相談や報告を行っている。市の研修会に参加し、情報交換に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束については毎年職員や管理者に外部研修に参加してもらい、また、内部研修もしてもらい、身体拘束にならないケアを心がけている。	指針があり、委員会を毎月開催し、研修会を年2回行っている。気になる言葉遣いは、職員同士で注意し合い気をつけている。玄関の施錠はせず、外出したい様子を察知したら、車椅子を押して散歩する等、気分転換を図り、本人の思いや行動を制限しないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法等については毎年職員や管理者に外部研修に参加してもらい、どういことが虐待になるかを学んでももらいまた、内部研修もしてもらい、虐待にならないケアを心がけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度について、外部研修に参加して、勉強させてもらい。現在、施設内にも後見制度を利用されてる方もおられる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約の締結時は、必ず重要事項、運営規程、契約書、必需品の説明等を時間をかけて読み上げて説明します。疑問点や質問なども説明して、同意を頂きます。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>家族会を年2回する他に、毎月近況報告を出して説明し要望があればその都度対応しています。</p>	<p>利用者には日常の会話で要望等を聞き、晩酌希望時は時々ノンアルコールを出す等、落ち着いて過ごせるようにしている。家族には、運営推進会議や年2回の家族会及び面会時に要望等を聞いており、出された要望にその都度対応している。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>毎月の職員会議や、朝の申し送り時に職員の意見などを聴いて介護に反映させています。</p>	<p>管理者は、毎月の職員会議で職員の提案を聞く機会を設けている。起床や入浴介助を2人体制で実施し、必要に応じ男女ペアで取り組むよう改善させている。個別相談は代表者・管理者が日常的に受けている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>代表者は毎日施設に来て、管理者を含め職員の勤務状況などを把握している。経営状況などをもとに職員の意見や提案などを施設の運営に活かしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修への職員への紹介を通して参加したい研修は研修費などの援助や参加しやすい勤務配置をしている。個人の介護力向上に努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他の施設からの見学の受け入れや、他施設との運営推進会議でのお互いの参加などを通して、サービスの質の向上をさせていくようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所時には本人や家族の要望また、生活歴から必要とすることなどお聞きして、本人の安心できる生活が出来るように支援している。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入所時の段階で家族や本人の要望、生活歴などを把握して、本人の不安に思っていることなどに耳を傾けながら関係作りに努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>まず初めに本人の出来ること出来ないこと必要としていることなどを見極めて、適切な支援が出来るように努めている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>本人が出来るだけ早く施設になじんで、ここが安心できる馴染みの家になるように信頼関係を築くようにお話を聞いたり、雑談したりコミュニケーションをはかっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方にはいつでも面会に来てもらい、家族の方の出来ることはお願いしたり、外出などの協力をもらったりして共に本人を支えてもらっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力の下、本人がなじみの店や行きたい場所への訪問等関係が途切れないように支援している。	家族等からの電話・手紙の取り次ぎや面会時に居室・ホールでお茶を飲みながらゆっくりしてもらい、関係が途切れないように努めている。家族との外食や買い物・自宅訪問も同様に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士仲の悪い人は距離を置けるようにテーブル席を分けて、仲の良い人同士が隣同士になる様にして、お互いが孤立しないように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が切れても家族や本人の困りごとがあれば相談に乗り、施設としてその後のフォロー出来ることは積極的に支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の意向や希望また、本人の置かれている状況などを県として本人が安心して生活できるように支援している。	日常の会話を通して本人の思いを把握するように努めている。意思疎通が困難な場合は、家族からの情報や表情等から推測し職員で話し合い対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の段階で生活歴の把握や今までの生活環境を家族からお聞きしてそれに応じた対応と支援が出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今までの生活歴や入所されてからの過ごし方などから出来ることや興味あること出来ないことなど現状を把握するように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の施設での生活を通して必要な介護や支援の仕方などを担当者会議や職員会議、毎日の申し送りなどで話し合い、本人に必要な現状に即した介護計画書を作成している。	事前に把握した家族の要望及び担当者会議で本人・医師・管理者が話し合ったことに、職員の意見を入れて介護計画を作成している。毎月モニタリングを実施し、6ヶ月毎及び状況変化時等に計画を見直している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のミーティングで日々のケアで必要なことや現状の状態などを記録して、その場にはいない職員にも申し送りノートで確認してもらい、職員間で情報共有しながら実践や介護計画の見直しなどに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望での外食や、本人の希望する食事の提供、馴染みの美容院や理容店の利用など柔軟に対応できるようにしている。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事や催しへの参加、他施設での催し物への参加などや小学校との交流など通して、安全で豊かな暮らしを楽しめるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人のかかりつけの医療機関を優先して、希望があれば訪問医の紹介や病院の紹介など、本人が望む適切な医療を受けられるように支援している。	契約時に確認し、希望するかかりつけ医の受診を支援している。訪問診療医やかかりつけ医と24時間連携・協力が図られており、事業所の看護師による健康管理も行われている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>施設には看護師がおり、介護職員との連携して利用者の体調の変化に対応して直ぐにかかりつけ医へ連絡相談が出来るようにしている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時は施設での状況などを情報提供書で提供し治療看護に役立てて頂けるように努めている。また定期受診や往診時には利用者の体調の変化などの情報提供に努めて医療機関との関係づくりに努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入所時に終末期ケアについて家族には説明を行い、施設で出来ることの限界や医療との連携で終末期を施設で送る方針を説明して家族の選択に任せている。</p>	<p>契約時に重度化等の場合の対応について説明し、同意書をもっている。状況変化時には、家族と管理者が同席して医師からの説明を受け、家族の意向を確認している。家族の意向に沿って、必要時は訪問診療医や訪問看護師とチームで支援に取り組んでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時に備えて、職員は施設に勤務して1年以内に消防署主催の救命講習を受けてもらって急変時の対応が出来るようにしている。また、看護師が急変時の対応を指導している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署や地域消防団の指導のもと防災訓練を定期的に行い、避難方法など職員は身につけている。新採用の職員は早い時期に訓練に参加してもらっている。</p>	<p>年2回の避難訓練を昼夜想定で実施し、消防署と消防団が1回ずつ立ち会っており、住民の参加もある。備蓄は水・缶詰・レトルト食品等を準備している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人部屋の居室でプライバシーに配慮されている。言葉かけなどには人格や誇りを傷つけないようにその人の生活歴に則した親しみのある言葉かけや対応をしている。	研修を実施し誇りやプライバシーを尊重し、さん付けで呼びかけたり入室時は声掛けしている。排泄や入浴介助時は羞恥心に配慮し、申し送りは名前を出さずに行い、プライバシーを確保している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を聞きだすために話しかけや自己決定出来る状況を作ったりすることに努めながら支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間はおおまかに決めてはいるが、生活ペースは各自に合わせて時間を変えたり、その日の体調など考慮しながら柔軟に対応して支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	服など自分で選びたい方は希望のものを聞いて用意している。また、馴染みの美容院などがある方は希望通りに家族の協力を得ながら支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の好きな食べ物など把握して準備したり、特別に作ったりしている。今は皆さんが重度化して一緒に準備や片付けは出来なくなっている。	献立は職員が作成し、畑の野菜等の旬の物を使用し、個々に応じた食事形態で提供している。誕生日のケーキや好物・手作りおやつ・季節の行事食等で、食事を楽しんでもらえるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量は毎回記録して、個人の摂取量は医師の指示のもとで決められている。出来るだけ好きなものを出したいが、難しいところもある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は自分で口腔ケアされている方もあるが、できない方は声掛けしたり、介助したりしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	尿意便意はある人でトイレに行きたくてもいけない人はそのしぐさや動作でトイレの判断をして誘導している。また、尿意便意のない人は排泄パターンを把握して定時誘導している。	チェック表で把握した排泄パターンや仕草等のサインで察知し、昼間はトイレでの排泄を基本に支援している。排泄用品は状況に応じて適切に検討している。必要に応じ、夜間はポータブルトイレやオムツを使用している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質のある食べ物や水分摂取量など便秘の原因をつくらないようにして、運動への声掛けやまた、それでも困難な方は医師の指示のもと緩下剤使用もしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	一応入浴日は週3回決まっているが、希望があれば入浴してもらっている。また、失禁などで汚れた場合も曜日に関係なく入浴をしてもらっている。	週3回の入浴を基本に好きな時間帯で入浴支援をしている。寝たきり利用者のシャワーチェアによる入浴や失禁時等のシャワー2人介助・同性介助も実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人によって就眠時間が違う日もあり、基本的にその人の眠りたい時間に合わせている。本人の眠りパターンに合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師との連携をはかりながら一人ひとりの使用している薬をすぐ確認できるように、薬の説明書を何時でも見れるようにしている。また、体調変化などはすぐに医師に連絡している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	皆さんがお手伝いできることはお願いして、役割を持てるようにしている。また天気よい時は日光浴や、外出などしている。また、地域の行事などへの参加もしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>日常は施設の周りの散歩や季節によってはお花見やお祭りなどに出かけたりしている。また、希望があれば外食などに出かけることもある。</p>	<p>日常的には、日光浴や敷地内・近隣の周辺散歩をしている。敷地内のアジサイや桜で花見をすることも多い。その日の希望等でドライブをしたり、家族とドライブや外食・自宅訪問等に出かけている。できるだけ外出できるように支援している。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭管理ができる方はおられないが、本人の希望で、買いたいものを一緒に買いに行ったり、また出かけられない時は職員が代わりに買いに行ったりしている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>自ら電話をかけることができる方はいないが、家族からの電話の取次ぎやお手紙の代筆をしたりして支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居間やホールは玄関から段差がなくて車いすで浴室まで行けるようにしている。窓も吐き出し口や、天窓などがあり、気持ち良く過ごせるようにしている。外には季節の花や果物野菜を植えており収穫の時期には手伝いや見学をしてもらっている。</p>	<p>室内は明るくエアコンで適度な温度に調節されている。手作り作品や花等で季節感のある飾り付けである。50畳のホールにソファコーナーを設置し、一人ひとりの利用者がゆったりと居心地良く過ごせるよう、席も工夫している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共用空間は50畳の広さのホールになっており、気の合った人同士お隣同士になったり、気の合わない方は距離を置いたりできるようにして個々のプライバシーが保てるようにしている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室内は本人の必要なものを置けるように7畳の広さがあり、大きな家具は置けないが使い慣れたものが置けるようにして居心地良く過ごせるようにしている。</p>	<p>ベッドや洗面台・タンス・ソファのある居室に、必要に応じてテレビや衣装掛け・加湿器を持ち込み、位牌や遺影・作品・写真・ぬいぐるみ等を置き、本人が落ち着いて過ごせる部屋作りをしている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>壁には出来るだけ手すりをつけて、伝い歩きが出来るようにしている。トイレは大きな手書きのトイレ表示をして、場所がわかるようにしている。また、トイレの電気は自動点灯にしている。</p>		

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない